

令和 6 年度 県立茨城東高等学校自己評価表

目指す学校像	「まなび・まなぶ・まなべ！いばらき東！ここからスタート！」 ○自分の発想やアイデアを大切にし、何にでもチャレンジする姿勢を育成する。 ○学校生活を通じて、集団活動の良さを理解し、思いやりの心を持った良い人間関係を育成する。 (1) 新たな夢・希望を常に持ち続け、自己の未発見の可能性を知る。 (2) 基本的生活習慣を確立し、基礎学力を向上させ、希望進路の実現を目指す。 (3) 感謝の心で生活し、多様性とお互いの良さを認め合える集団づくりを実践する。	
三つの方針	具体的目標	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○グランドデザインの「目指す生徒像」等に対応 ①目標に向かって自ら考え、個性と創造力を活かし、一生懸命に取り組むことのできる人財 ②知的な好奇心を持って探究し、自らの意志で選択できる人財 ③社会の多様性を理解し、地域社会に貢献できる人財 ④他者を思いやり、公共や倫理を重んじることができる人財
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○学校経営計画表の「中期的目標」等に対応 ①健全で調和のとれたたくましい人間育成を目指し、規範意識の高揚と基本的生活習慣の徹底を図るための人智学教育の確立の実現 ②確かな学力を身に付けるため、自らが学ぼうとする態度を身に付けるための指導と、基礎学力の向上を図る教育課程の編成 ③SDGs等についての理解や参加を促すため、地域社会の教育力との連携を深めるなど他者と協働し、地域の環境保全や国際理解を図るための体験的な学習と探究する機会の提供 ④キャリア教育の充実を図り、アウトプットの学びをとおして進路意識を高揚させ、進路希望に応じた選択科目を適切に選べるようなガイダンス機能の充実と進路指導体制の確立

別紙様式 2 (高)

	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○入学者選抜における特色選抜実施概要の「出願要件」等に対応 ①学校生活に目標や活力を持って主体的に臨み、生徒会活動や学校行事、資格取得、部活動等、自身の得意を伸ばそうと積極的に取り組む意欲のある生徒 ②地域の諸課題や環境保全に興味を持ち、ボランティア活動や探究活動等を通して地域を支え、地域に貢献しようと努める生徒 ③学びに向かう意欲があり、学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、自立した職業人として社会に貢献しようとする確固たる意思を持つ生徒		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
1 学校設定科目「ベーシックトライ」における電子黒板の活用と反復学習により基礎学力の向上が見られた。 学校設定科目である「キャリアデザイン」と「ベーシックトライ」を導入した効果が表れており、進路未決定者が減少傾向にある。 2 就職については、学校紹介を希望する生徒の内定率は 100%となった。進学においては四年制大学希望者の中で総合型入試で私立大学への進学を果たしている。 学習に苦手意識を持ち、学習習慣が身に付いておらず、学習目標が設定できない生徒に対して I C T 等を活用して継続的な学習指導の徹底を図る。		(1) キャリア教育を軸として地域の教育力を活かした取組のさらなる充実を図る。	ア 全職員の共通理解のもと、キャリア教育の取組を推進する。 イ 生徒、保護者、地域の要望を的確に把握し、特色ある取組を実践する。 ウ 学校規模、生徒の実態等を考慮し、取組の改善に努める。	A
		(2) 生徒一人一人の進路実現に向けた教育活動のさらなる充実を図る。	ア 学習指導要領の内容に即した「ベーシックトライ」の効果的な指導方法の改善を図る。 イ 習熟度別学習や少人数指導によって、基礎学力の確実な定着と応用力の育成を図る。 ウ 「主体的で対話的な深い学び」を実現するために I C T の活用や探究学習を取り入れた授業改善を積極的に実施する。 エ 教員による相互授業参観や校内研修等を実施して、指導力の向上を図る。 オ 家庭学習の習慣化とチャイム着席指導を徹底することで、授業を大切にする意識を育成する。	B
3 基本的生活習慣の確立において指導を要する生徒には、保護者と連携した指導を継続していく。 全職員一丸となって遅刻指導や服装頭		(3) 道徳観・倫理観を育成し、豊かな人間性を培う。	ア 「ダメなものはダメ」という厳しい態度とともに、生徒に寄り添う姿勢で指導に当たる。指導は共通理解のもと教職員全体で行う。 イ 生活の自己管理能力を涵養する。	B

別紙様式 2 (高)

髪指導など身だしなみの指導に取り組んでいる。 いじめの事案については、早期発見に努め、いじめ対策防止委員会を中心として、学校全体で対処することができた。また、県教委や警察などの関係機関とも連携を図ることができた。 合理的な配慮を要する生徒等への対応は、専門家の指導助言をいただきながら改善を図ることができた。		a 基本的生活習慣を確立させる。『欠席をしない』、『身だしなみを整える』、『あいさつを励行する』、『時間を守る』の徹底を図る。 b 礼儀や言葉遣いなど、基本的なマナー及び公共マナー・交通マナーを身に付けさせる。 c いじめ問題や希死念慮など命に関わる事案の早期発見と早期対応のため、生徒ひとり一人に寄り添いながら声かけや観察をおこなう。	
4 学校行事に関しては、生徒会を中心として、工夫を凝らして計画以上の行事を開催した。特に文化祭は一般公開とし、生徒だけでなく教員も一緒になって感動することができた。	(4) 学校行事や部活動を通して学校生活を充実させる。	ア 生徒会・各種委員会活動の活性化を図る。(学校への帰属意識の高揚、高い目標での自己実現) イ 校内外での体験的な活動を通じて、自己肯定感を高めるとともに、他者への理解を深め、一人一人の心の成長を図る。 ウ 部活動への興味・関心を高め、積極的に部活動に参加させる	B
5 自然環境保全活動団体 We are 潤沼っ子!の活動が地域社会から評価されている。茨城県環境フォーラムにワークショップを出展しボランティア活動等を実施し、地域社会の一員としての自覚や奉仕の精神を培っている。	(5) 家庭や地域に貢献し信頼される学校づくりを推進する。	ア 家庭・地域社会と適切に連携協力して、地域から期待され、信頼される開かれた学校づくりを推進する。 イ 学校ホームページ等を活用して、学校の教育活動及び生徒の活躍する姿を積極的に発信する。 ウ 事件・事故の未然防止に努め、安全・安心な学校づくりを推進する。	B
6 教職員の人員削減により、教職員1人の業務量は増加傾向にある。勤務時間の管理及び縮減に努めた。ICTを活躍した諸連絡の電子化など業務の効率化を図ることを発展的に継続することができた。	(6) 働き方改革	ア 1月の勤務時間外の校内在校時間合計が、80時間を超える職員を0人とする。 イ 1月の勤務時間外の校内在校時間合計が、45時間を超える職員は6人以下にする。 ウ 会議の在り方を考え生徒と向き合う時間の確保に努める。	A
7 茨城町が主催するワークショップに参加し、町民と連携しての町作りをおこなった。また、英語プレゼンテーション等へ参加し、生徒の得意を伸ばす教育を実践することができた。	(7) キャリア・パスポートの充実	ア 生徒が主体となっておこなう茨城町と協働する企画や事業を実施し、広報等で成果を発表する。 イ 生徒の得意を活かすことのできるコンテスト等に積極的に参加する。 ウ 生徒の進路を見据えた資格や検定の取得にチャレンジさせる。	B

別紙様式 2 (高)

8 授業改善としては、県教委が年度末におこなった生徒による学校評価において「授業満足度」の学校全体の評価平均は3.3(最低は2.3)であった。また、授業改善重点項目は3.2(最低は2.4)であった。しかし、個々の科目の授業では、生徒から様々な要望に応えられるような柔軟性が必要である。		(8) 授業改善の促進	ア 個々の授業においては、生徒から様々な評価が浮き彫りとなっている。授業満足についての評価は県教委が実施する授業評価において3.4以上を目指すことで、学びの質の保障を果たしたい。 イ スタディサプリを用いて、ICTを活用した授業の開発に努める。 ウ 教員の持ち味を活かした授業の工夫と展開を図る。		B
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
国語	国語の基礎学力の向上と主体的に学ぶ力の育成	・始業前の学習準備を徹底させ、服装・態度を見直す指導をした上で始業する。	B	A	・電子黒板等のICTの効果的な利用方法について模索し、基礎学力のさらなる向上を図る。 ・継続して、始業前の学習準備を徹底させる。
		・漢字や語句等の繰り返し学習を通して基礎が基礎学力を付け、グループ学習や表現活動を通して主体的に学ぶ力を育成する	A		
		・教材研究をしっかりと行い、電子黒板等のICTを効果的に利用することで、授業内容が理解出来るよう促す。	B		
		・教科書の音読テストやノート提出等を通して、その達成度を随時確認する。	A		
	進学・就職試験に対応する実践力の育成	・進学試験に向けて検定に参加させ、過去問題の演習や面接・小論文指導を通して、進路実現に必要な実践力を身に付けさせる。	B	B	・漢字検定への取り組みを通して、進路意識を高め、社会で通用する力を養う。
		・グループ活動やスピーチなどの言語活動を通して、自分の思いを言葉で伝えるための自己表現力を高め、「社会」で通用する力を養い、生徒自身が自信を持てるよう指導する。	B		
地歴・公民	授業を受ける態度の育成	・話を聞く態度を身につけ、社会人として通用する力を養う。	B	B	ICTの利用があまりできなかった。また、教科書メインの授業となり、その他教材の使用、課外など実施する事ができなかった。 次年度は教科書外の授業も実施したいと思う
	基礎学力の定着	・基礎学力の定着をはかり、生徒の進路を実現できるようにする。また、生徒に身近な学習内容を吟味し、興味・関心をひくような授業を展開する。	B	B	
	進路実現に対する意識の向上	・年次と連携し、授業や課外などで就職試験やセンター試験の過去問題を取り上げるにより、進路実現の意識を高め、就職試験や進学試験に対応できる力を養う。	C	B	
数学	授業を受ける態度の育成	・授業開始時刻の遵守、ノートを取る、授業者の説明を聞くなどの、授業を受ける態度を育成する。 ・電子黒板やタブレットなどを活用して、関数や図形など、視覚的に捉え学習	A	A	・習熟度別のクラス分け方法を見直し、より効果的・効率的な指導ができる

別紙様式 2 (高)

		できるよう工夫し、生徒の興味・関心を引き出し、学習意欲を高める。			体制を目指す。 ・タブレット活用法を積極的に共有し、生徒のタブレットの活用を促進する。 ・指導内容を工夫し学びなおしを充実させながら、高校生の数学を指導していく。
	基礎学力の定着と、定期考査の得点の向上	・学び直しや繰り返し学習を通して、各単元の基礎的内容の定着を目指す。課題の提出率 80%以上を目指し、定期考査の平均点 60 点を目標とする。また、成績下位者に対して放課後課外を実施し、欠点保有者を減らす。	B	B	
	進学・就職試験に対する意識の向上	・進学・就職試験に対応できる学力を身につけさせるために実際の試験問題等を取り入れ、生徒の進路意識の向上を図る。	B	B	
理科	授業を受ける態度の育成	・学習用具の準備、制服の着用、机上の整理整頓など授業を受ける態度を養う。	B	B	・総合的な探求の時間と連携を図り、学校保有林の整備等の環境学習を実施できた。 ・教授型の授業展開でなく、主体的な学びにつながる授業展開の工夫がさらに必要である。
	分かる喜びを実感する授業の展開	・実験・演習を取り入れることにより、生徒の興味・関心を引き出し、科学の基本的な概念や原理・法則を理解できるようにする。	B	B	
		・電子黒板を活用し、デジタル教科書やデジタル資料を用いて、授業の中で実験や観察と同様の視覚的な刺激を与え、生徒の興味・関心・意欲を高める。	A		
		・授業展開を工夫し、生徒が主体的に授業に参加できるようにする。	B		
	日常生活の中での科学事象への気付き	・新聞やテレビ等で取り上げられた話題を授業に取り入れ、身の回りで起こる現象等に興味を持たせるとともに、豊かな科学的素養を養わせる。	A	B	
		・電子黒板を活用し、日常生活の中での科学事象を取り上げ共有するとともに、多角的な視点からの考え方を知ることによって、科学的素養の向上を目指す。	A		
		・学校設定科目「潤沼と自然」の中で、地域との関わりを深めながら、多くの自然に触れ、科学に対する興味・関心、意欲を持つことができるようにする。	B		
		・学校保有林の整備や水質調査などの環境学習を通して、我々にできる取り組みについて考え、実行することによって、地域の発展に寄与する	B		
保健体育	規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立	・「チャイム開始」の徹底や体育時の服装の徹底を図る。	A	A	・授業における挨拶や集合、準備の態度が向上した。「チャイム開始」の意識も高く見られる。 ・運動をする習慣は身に
		・授業を通してあいさつ・礼儀等を身につけさせ、基本的生活習慣を確立させる。	A		
		・集団での行動や競技におけるルールを学び、公正・協力・責任などの態度を育てる。	A		

別紙様式 2 (高)

					つuitaga、自ら積極的にとまではいかない。運動への興味を持たせる取り組みが必要。
		・準備運動での号令や準備、後片付けを仲間と協力して主体的に行うことができるようにする。	B		
	心身共に健全な発達と生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培うことによるよりよい人間形成	・健康や安全の大切さを認識し、自らの生活習慣を見直し健康を適切に管理することを理解させ実践させる。	B	B	
		・運動することに興味を持ち、体力を高めるための運動に継続的に取り組み、個に応じた指導を通して基礎体力の向上と実践力を身に付けさせる。また、体力テストの値を向上させる。	A		
	興味・関心を高める授業づくり	・意欲の乏しい生徒に対し、運動の技能を高めるとともに、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	A	A	
芸術	授業を受ける態度の育成	・教室移動を迅速に行い、「チャイム開始」ができるよう指導する。	A	A	・授業を受ける態度や授業中の取り組みはクラスや学年により異なるが、休み時間の間に準備を終わらせて授業開始を待つクラスが多かった。 ・Wi-Fi の導入によってポートフォリオの活用ができるようになり、生徒自身が作品を振り返りやすくなった。ICT を活用した活動では、各自のペースに合わせた創作活動や学習ができ、より専門的な力を身に付けることができた。
		・歌う、楽器を奏でる、静かに鑑賞ができるように取り組ませる。(音楽)	A		
		・授業開始までに学習に必要な用具用材を準備し、着席する習慣を身に付ける。(書道・美術)	A		
	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる	・学習活動における各自の目標を明確に示し、それぞれの特徴(歌唱・楽器／古典作品・用具用材)を捉え、主体的に表現する力を身に付けるための基礎基本を理解させる。	B	B	
		・鑑賞を通しながら、芸術への理解を深めるとともに、芸術の豊かさを味わうことができるようにする。	B		
		・幅広い活動を通して、個々の芸術に対するとらえ方や考え方を深化させ表現させる。	B		
		・感性を高め豊かな情操を養う。	C		
	創造的な活動と個性豊かな表現力の伸長	・生徒一人一人の表現力を伸ばすとともに、作品の製作や表現活動を通し、自己の可能性や表現の楽しさを理解させる。また他の生徒の個性を尊重する心を養う。	B	B	
外国語	授業態度の育成	・教科書・ノート等の忘れ物がないように指導し、制服を整え落ち着いて授業を受ける態度を身に付けさせる。	B	B	
		・チャイム着席・チャイム開始の指導を徹底する。	B		
	英語の学習意欲の向上	・少人数授業を行い、グループ活動等の学習形態を工夫し意欲的に取り組み	B	A	

別紙様式 2 (高)

		る授業を展開する。		A	ICT 機器も活用しながら、リスニングやリーディングを中心に基礎を覚え、活用できるように工夫をすることができた。 ・今年度は第一回の実用英語検定で3名が受験し、第三回では2名が受験予定である。第一回は進路を意識した三年生、第三回は来年度に向けて意識を変え始めた二年生の受験になるので、そういった意識を大切にしてい、次年度は受験者数を増やしたい。
		・パフォーマンステスト等を行い、4技能を学ぶことができる授業を展開する。	A		
		・デジタル教材等を活用し、電子黒板やその他の教具を活用した魅力的な授業を展開する。	A		
	基礎学力の向上	・少人数授業の利点を最大限に生かし、反復演習で基本的な語彙と文法知識の定着を図る。	B	B	
		・ベーシックトライを通して基礎学力の向上を図る。	B		
	進路を意識した学習の充実	・実用英語検定試験や基礎学力診断をより多くの生徒が目標を達成できるよう、課外指導や事前指導を計画し、受験指導を積極的に行う。	B	B	
家庭	授業を受ける態度の育成	・学習に必要な教材の準備をさせる。また、実習においては服装をきちんとさせ、衛生面の意識を向上させる。	A	A	・授業に必要な道具を授業前に用意している生徒が例年に比べて多くなった。 ・日常生活で実際に使用するものやWebサイトを授業に取り入れ、リアリティのある題材を取り入れることを心掛けた。
	自立できる力の育成	・食領域では、栄養や調理の理論、実習を通して自立できる力を身に付けさせる。	B	B	
		・衣領域では、被服の材料やその管理について学習し、自立できる力を身に付けさせる。	B		
		・クレジットや悪質商法の学習を通して、将来賢い消費者として生きる知識を身に付けさせる。	A		
	健全な家庭生活観の育成	・食領域では、具体的に献立作成や調理実習を通して、健全な食生活の定着を図る。	B	B	
		・衣領域では、被服管理を通して清潔な衣生活の定着を図る。	B		
		・家庭・家族の学習を通して、健全な家庭生活のイメージを高める。	B		
商業	進路実現に向け、地域社会に貢献できる社会性の育成	・ビジネス基礎において、社会人として求められる知識を習得し、生涯にわたり自ら学ぶ力を醸成する。	B	B	・進路を意識させた授業を展開できるよう、さらなる授業改善を図っている。
		・実習を多く取り入れて、思考やアイデアを形として表現できる創造性を醸成する。	A		

別紙様式 2 (高)

		・商業の諸科目を通して、企業が順守すべき法令や個人情報 の大切さを指導することで、社会人として節度ある人財の育成を目指す。	B		きたい。 ・資格取得の意義を丁寧に伝え、受検者増に努めたい。
	資格取得に意欲ある生徒の育成	・情報処理検定等の資格取得に向け、自ら学ぶ生徒を醸成する。	B	B	
情報	情報モラルの育成	・学習を通して、情報社会の中で守るべき法律等を身に付け、社会人として必要なルールやマナーを育成する。	B	B	・適切なオンライン授業の構築を図りたい。
	情報活用能力の育成	・コンピュータの基礎的・基本的な操作技術の習得を目指す。特に、年４回ある検定試験に向け積極的に取り組む過程で、情報活用能力を育成する。	C	C	
教務	授業時間の確保	・授業変更が前もって確実に行われるようにするとともに、急な填補にもスムーズに対応し、授業時間の確保に努める。	A	B	・学級減に伴う教員の定数減を見越した今後の教育課程を検討しなければならない。B Tやキャリアデザイン、選択科目や少人数授業の在り方等、本校の特色であるものが持続可能であるかどうかについても含めて。 ・観点別評価における評価の材料や評価基準について、各教科で更なる研究を深める。 ・学校ホームページの更新は質より量を重視し、学校生活の様子をこまめに外部に発信していく必要がある。 ・トラブルなく校内情報を管理し、情報モラル研修も実施できた。
		・教員が「チャイム開始」「チャイム終了」を心がけることで生徒にもその意識を持たせ、１時間を大切にせる授業を実践する。	B		
	教育課程の研究	・生徒(教員)減が進む本校の現状と将来像を見据え、将来構想に即した教育課程を研究する。	C	C	
	各教科・科目の指導法及び評価方法の研究	・授業の相互参観や教材共有などにより、教員の学習指導力の質的向上を目指す。	B	B	
		・観点別評価について、教科間で情報共有をしながら、より緻密で合理的な評価方法について研究し実践する。	C		
		・デジタル教材、電子黒板、タブレットP Cの効果的な活用及び教授法の研究を促進し、活用頻度を上げる。	B		
	開かれた学校を目指した地域への情報発信	・学校案内パンフレットの内容の充実や、ホームページの速やかな更新によって、中学生・保護者・地域等への広報活動を積極的に行う。	C	C	
		・学校説明会や、学校公開(含授業参観)など、中学生・保護者・地域住民に本校を深く理解してもらうための機会を設ける。	B		
	校内情報管理の徹底	・適切な校内情報管理の徹底に努める。	B		
	後援会活動の活性化	・後援会の規約や運営体制を整え、適正な運営に備える。	A	A	
・保護者が学校行事に参加できる機会を増やし、後援会活動の活性化を図る。		A			
図書館の整備と利用率向上、放送委員会の充実	・書籍や図書資料の充実や備品管理に努め、皆が使いやすい環境を維持し、図書館については生徒の利用率向上を図る。	C	B		
	・図書委員の研修会への参加、茨城町立図書館による出前講座受講などの校内	A			

別紙様式 2 (高)

		活動を通し、地域の図書館との連携を図りながら、図書館利用マナーの意識の向上を促す。また、図書館だよりの生徒主体の作成・発行を行う。			・円滑に後援会を運営し、保護者へ芸術鑑賞会への参加を呼びかけた。他の行事への支援や参加の機会も検討したい。
		・学校行事における放送業務、昼休み等の校内放送など、放送委員会の活動を充実させる。	C		
生徒指導部	規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立	・挨拶、礼儀、言葉遣い等を中心に、マナー全般の向上を目指し、継続して指導を行う。	A	B	・ルールやマナーを守ろうという生徒は確実に増えてきており、学校全体としても落ち着いてきた。誰もが安心、安全に通うことができる学校づくりを継続するためにも、現在の指導を継続していきたい。 ・加害、被害を問わず生徒が直面した問題に、家庭や外部の専門機関などとも連携をとりながら、学校として出来る限り迅速な対応を心がけた。また、社会が目まぐるしく変化する中で、従来の考え方だけでは対応することが難しい問題も多い。次年度に向け、生徒の直面する問題に対しては、学校組織として迅速に、そして柔軟な発想も大切にしながら適切に対応していきたい。
		・遅刻の減少を図る。(目標達成率を登校生徒の5%未満とする。)	C		
		・さわやかマナーアップ運動の推進。(身だしなみを整える。)、服装頭髪指導の徹底を図る。	B		
	問題行動及び非行化の未然防止	・教員と保護者間の連携を密にし、指導にあたる。	A	B	
		・校舎内外及び学校近隣地域の巡回指導の徹底を図る。	B		
		・教員間での公平、公正な指導と共通理解の徹底を図る。	B		
		・校外巡回指導及び立哨指導、保護者との連携を密にし、事故の未然防止に努める。	B		
	交通事故の未然防止	・交通安全講話の実施。	A	B	
		・交通安全及び交通法規遵守、ルールやマナーに関する意識の高揚を図るため、ホームルームその他の機会を設定する。	B		
	自己の安全や健康に関する意識の高揚	・薬物乱用防止(喫煙を含む)については、講習会(外部講師による)の開催などにより指導の徹底を図る。	A	B	
・携帯電話やスマートフォンの適切な利用について、家庭でのルール作りを推進し、講習会(外部講師による)を開催し、指導の徹底を図る。		B			
・社会生活、集団生活における自己の役割と責任を自覚させる。		B			
保健厚生部	清掃の徹底と環境整備の	・年間計画に基づいて定期検査及び日常点検を実施し、学習環境の充実を図	B	B	・不審者対応の訓練や講

別紙様式 2 (高)

	充実	る。		A	習ができなかったので、次年度に向けて準備をしたい。 ・教員や生徒数の減少にともなう清掃区域の再編を進める。
		・毎日の清掃、一斉清掃の徹底を図る。	A		
	生徒の心身の健康管理の充実	・健康診断・各種検診の実施と事後指導の徹底を図る。	A		
		・生徒の健康維持のために担任・保護者・学校医との連携を図る。	A		
		・各生徒の様子を観察し、健康管理を徹底する。	A		
	防犯・防災意識の高揚	・避難訓練を実施し、防災意識の高揚を図る。	B		
		・不審者に迅速に対応する防犯意識の高揚を図る。	B		
	教育相談活動の充実	・教職員、スクールカウンセラー、保護者と連携を図り、生徒への支援を行う。	A		
		・生徒が相談しやすい環境を作る。	A		
	校外・校内における研修会の積極的な参加と実施	・校内において研修会を開きカウンセリングの様々な方法を学び、生徒一人一人の悩みや不安に対応する。	A		
・校外における研修会に積極的に参加する。		B			
特別活動部	生徒会活動の充実	・生徒会役員として自覚ある行動を促す。	A	A	・生徒会役員の生徒たちが、火曜日と木曜日に昇降口で朝の挨拶運動をおこなうなど一般生徒の模範となり良い影響を与えた。次年度も継続したい。 ・クラスマッチや芸術鑑賞会では、実行委員会と生徒会が種目やルールなどを協議するなど生徒が主体的に取り組み、安全で楽しい行事になった。次年度も継続したい。 ・前期の終業式後と冬季休業前に生徒会主催のクリスマススポーツ大会（レクリエーション自主参加）がおこなわれ生徒が主体的に企画・運営することができた。次年度も継続した
		・生徒総会やクラスマッチ、茨東祭などの学校行事において、自主的・自発的な行動を促す。また、生徒が主体的に企画・運営できるよう計画的に指導する。	B		
	部活動の奨励と活性化	・仮入部や部活動見学を充実させ、部活動加入生徒の拡大を図る。	B	B	
		・部活動指導を充実させ、運動部・文化部の活性化を図る。	B		
		・部活動掲示板などを利用し、各部活動の活動状況・活躍を全校生徒に向けアピールする。	B		
	ホームルーム活動の充実	・ホームルーム役員の積極的な活動を促す。また、ホームルーム活動資料の活用を図る。（道徳教育の充実、東日本大震災や新型コロナウイルスなどを踏まえた安全教育・体験活動、ケータイ・スマホ利用について）	B	B	
		・好ましい人間関係の構築やこころの教育、ボランティア活動をとおして、奉仕の精神を養う。	B		
	学校行事への積極的に参加する態度の育成	・各ホームルーム役員や各常任委員会の役員として、クラスマッチなどの学校行事に積極的に参加する態度を育成する。また、学校新聞やホームページなどを活用した広報活動の充実を図る。	A	A	
		・自然環境保全活動団体「We Are 涸沼っ子！」の活動をとおして、地域社会や地域住民との交流行事やボランティア活動などに積極的に参加し、地域の活性化に貢献する心や態度の育成に努め、地域の一員としての自覚が持てるように指導する。	A		

別紙様式 2 (高)

	キャリア・パスポートの活用	・キャリア・パスポートを活用して、高校生活を見通したり振り返ったりしながら、学びを積み重ねて成長させる。例えば、授業や学校行事、部活動などの体験や学びで活用していく。	C	C	い。 ・生徒たちに考えさせ、行動させるためには教員のバックアップを継続したい。 ・部活動は活性化させることはできなかった。次年度に向け創意工夫が必要である。"
進路指導部	生徒の進路決定支援の充実	・各種ガイダンスや、インターンシップ、デュアルシステムの実践を通して、生徒にとって望ましい職業観と勤労観を段階的かつ計画的に育成する。	B	B	・年次の進路行事やキャリアデザインの授業を、これまでの実践例を効果的に活用していかに煩雑にならないように改善していくか。 ・進学就職ともに進路決定がしやすい現状において、いかに生徒が主体的に自分事として進路に向き合わせるか。 ・進路行事一つひとつの見直し。
		・各年次と連携し、生徒の進路希望に沿った課外を企画・実践し、定着させる。	B		
		・企業訪問を計画的・組織的に行い、求人の確保を図る。	C		
		・生徒との進路相談をこまめに実施し、進路選択のミスマッチを防ぐ。	A		
	情報の共有	・本校キャリア教育のスタイル確立に向けて、キャリアデザイン等の実践を全年次で共有し、効果的な工夫・改善を図る。	A	B	
		・到達度テストの定期実施により、基礎学力の定着および学力向上の度合を分析する。	B		
		・受験報告書や入試情報の分析を積極的におこない、進路指導に反映させる。	B		
		・ジョブサポーターやハローワークとの連携を密にとり、タイムリーな求人情報を得るとともに、それらの情報を生徒や保護者へ速やかに提供する。	B		
		・「進路の手引」をさらに活用しやすくなるように編集し、生徒及び保護者への進路情報提供を確実に行う。	B		
	進路相談環境の整備	・進路指導室や進路資料室を整備し、生徒が進路情報を得たり進路相談しやすい環境をつくる。	A	A	
		・進路決定に役立つ文献や DVD 等の充実を図る。	B		
1 年次	基本的生活習慣の確立	・時間を守り、時間を意識した行動がとれるようにする。	B	B	・頭髪指導では、再検査になる生徒がほとんどなか

別紙様式 2 (高)

		・高校生としてふさわしい頭髪・服装の在り方を自覚し、きちんとした制服の着こなしができるようにする。	A		った。自ら時間を守る、制服をきちんと着るなどの、自律性が次年度の課題である。 ・キャリアデザインⅠや面談を通して進路目標を定めることができた。実現のために、基礎学力の定着やコミュニケーション能力の向上を図りたい。 ・学校行事や校外活動に積極的に参加している生徒もいるので、学年全体でフォローし、活動を支援していく。
		・きちんと「伝え」「聴く」姿勢とスキルを身に付けさせる。	C		
		・集団の中にある人間関係を理解し、自他の違いを認めることができるようにする。	B		
	基礎学力の向上	・集中し、落ち着いて授業に取り組む姿勢を身に付けさせる。	A	A	
		・「ベーシックトライ」を通して、基礎学力の向上を図る。	A		
	進路希望の実現	・キャリアデザインⅠを通して、社会人として必要とされる資質や自己の適性について気付かせる。	A	B	
		・平常及び休業中課外を計画的に行い、上位層の学力伸長と各種検定の合格率向上を図る。	B		
	諸活動への積極的参加	・部活動や特別活動への積極的な参加を奨励し、生徒一人ひとりが個性を発揮できる環境を整える。	A	B	
		・学校行事や校外活動への積極的な関わりを支援し、生徒どうしだけでなく、いろいろな人とのコミュニケーションがとれるようにする。	B		
	2 年次	基本的生活習慣の確立	・時間を守り行動できるようにする。特に授業や集会等のチャイムスタート及び授業に臨む姿勢づくりの徹底を図る。	C	
・中間年次としてふさわしい頭髪・服装の在り方を自覚し、正しい制服の着こなしができるようにする。			C		
・集団生活の中で、自他の違いを認め他者を尊重する心を育て、道徳心を身に付けさせる。			B		
・あいさつと正しい言葉遣いを習慣付け、「伝え」「聴く」姿勢とスキルを身に付けさせ、コミュニケーション力の向上を図る。			B		
基礎学力の向上		・授業に臨むための好ましい姿勢を身に付け、学習に集中して取り組むことができるようにする。	C	C	
		・ベーシックトライⅡを通して、進路実現に必要な基礎学力の向上を図る。	B		
		・スタディサプリでの学習から、毎日の学習習慣形成につなげられるようなシステムづくりを行い継続的な学習の意識を養う。	C		

別紙様式 2 (高)

	進路希望の実現	・進路希望の実現に向け、キャリアデザインⅡやインターンシップなどを通して社会人として必要な資質や自己の適性に気付くことができるようにする。	B	B	るよう継続して指導する。 ・進路選択に関して、意識を高く持っている生徒が多い一方、未だ他人事のような振る舞いの生徒もいる。自身の目標を明確にし、社会に出ることを意識させることが急務である。 ・一部、規範意識の低い生徒が見られる。次年度には成人年齢となることもあり、社会に出ることを強く意識させ、指導にあたりたい。
		・夏休みなどの長期休業を利用し、オープンキャンパスなどに積極的に参加できるように告知の徹底を図る。	A		
	諸活動への積極的参加と集団の一員としての自覚	・部活動や特別活動への積極的な参加を奨励し、生徒一人一人が個性を発揮して活躍できる環境をつくる。そして、学校の一員としての自覚を持たせる。	B	B	
		・修学旅行などの校外活動を通して、社会で必要とされる資質を身に付けられるようにする。	A		
3 年次	基本的生活習慣の確立	・時間を守り行動できるようにする。特に授業・集会等におけるチャイムスタート及び態勢づくりの徹底を図る。	B	C	・全体の 9 割は時間前の移動教室、集会への移動をすることができていたが、いつも同じ数名が遅れて移動をする日々が続いていた。 ・スタディサプリの利用や日頃のベーシックトライなど手立ての提供はできていたが、基礎学力の定着につながる取り組みまで一人ひとりに対応しきれなかった。 ・進路については担任の先生が、生徒とよく話をして希望の進路を実現する
		・茨城東高校の最高年次としての自覚を持ち、身だしなみや行動面で後輩の見本となるような学校生活を送れるようにする。	B		
		・年間欠席日数が 10 日を超える生徒を 5 人以内にできるようにする。	E		
	基礎学力の向上	・一つ一つの授業時間を大切に取り組み、バランスよく知識を身に付けられるようにする。	C	C	
		・ベーシックトライⅢとスタディサプリの課題配信を通して、進路実現に必要な基礎学力の向上を図る。	C		
	進路希望の実現	・進学や就職試験対策の模擬試験や課外授業、個別指導を計画し、個々の進路希望に応じた進路指導を実践できるようにする。	B	B	
		・計画的に面接練習を行い、入学試験や入社試験に対応できるようなコミュニケーション能力の素地を高められるようにする。	B		

別紙様式 2 (高)

		・保護者との連携を密にし、進路情報を共有することにより進路先内定後の辞退や早期退職等の予防を図れるようにする。	C	B	生徒が多かった。しかし、フリーターを希望する生徒が例年より多い印象である。 ・9月までの就職活動が終わってから欠席が増えてしまう生徒が多かった。
	茨城東高校の一員としての自覚と社会人としての準備	・学校行事に休まず参加し、結果よりも100%の力を発揮することの大切さを意識し、助け合い・学び合いの精神を持って行動できるようにする。	B		
		・各種学校行事においてリーダーシップを発揮し、これまでの本校の伝統を継承していくとともに、将来地域のリーダーとなる資質を身に付けられるようにする。	B		
事務部	予算の適正な執行	・公金であるという認識のもと、コスト意識を持ちオープンカウンター方式による見積合わせ等を活用しながら早期かつ効果的な執行に努める。	C	C	・各施設の修繕箇所の特 定、各部からの要望を正確に把握し、速やかな予算の執行に努める。 ・安心安全な教育環境を目指し、施設改修整備を計画的に実施。 ・省エネを意識（照明設備のLED化）した取組を継続。 ・来客対応、電話対応等、窓口業務対応の意識向上。
	施設設備の適正管理及び教育環境の整備	・定期的に校内巡視を実施し、校内危険箇所の早期発見及び早期改修の実施に努める。また、施設設備の整備・改修など、教育環境がより充実するよう努める。	C		
	省エネルギー・資源リサイクルの推進	・引き続き省エネルギー（節電・節水等）の推進に取り組み、使用量の削減に努める。特に電気料については、契約電力が前年度を上回らないように注意する。	C		
		・廃棄物の分別を徹底し、焼却ゴミの排出量を削減する。また、グリーン購入法に適合した物品・コピー用紙等の購入により資源リサイクルを推進する。	C		
	窓口等での適切な接遇	・学校の第一印象は窓口業務にかかっているという自覚を持ち、来校者や電話での対応をより適切かつ丁寧に行うよう心がける。	C		

※評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない